

## 夏の講演会・講習会を開催しました

2015年8月6日・7日

会場を昨年の京都から大阪（ホテルアウリーナ大阪と大阪府立生野聴覚支援学校）に変え、夏の講演会・講習会を開催しました。現在、会員数は274名。遠方からお越しの会員外の先生方、関係機関の方々も含めて、今年の参加者数は265名でした。

夏真っ盛りの暑い中でしたが、熱心に研修されていました。

みなさんからお寄せいただいたアンケートで、講座の様子をご紹介します。

### 参加者の感想

講演会 8月6日午前

#### 「聴覚障害児の言語発達」

（講師 東北福祉大学教育学部  
教授 大西 孝志先生）

- とてもわかりやすかったです。聾学校の専門性が、「専門性※」というお話もとても印象的でした。聴覚障害の子ども達の可能性を伸ばすために、いろいろと工夫していくことが大切だと改めて感じました。

※「専門性」とは：別の専門性を、口を挟むようにプラスアルファできること。教科指導・生徒指導のノウハウを聴覚障害の特性にアレンジする力。

- 音韻表象を確立していく・・・「音韻表象」という言葉自体初めて知りました。耳で聞いた言葉を文字に結び付ける、今いる子どもはまだまだ前段階の子どもですが、教師の「専門性」を頭に置きながら、一つ一つの子どもの課題を把握し、支援していきたいと思いました。
- 読み書き指導の大切さ、音韻表象の確立につながる発音指導や口声模倣の必要性に変わりが無いことを再確認させていただきました。自立と社会参加に向けて、合理的配慮は教育的意図のもとにひかえるべき場合があることも勉強になりました。専門性を支える専門性の指摘も参考になりました。
- “伝わりやすさを重視するあまり簡単な言い方になっていないか？”という言葉で改めて、日々の実践を見直さなければと思いました。子供が将来自立していくために今どのようなことを指導すべきなのかをしっかりと考え、問題を先送りしないことが大事だと思いました。



全体講習 8月6日午後「聴こえにくい子どもたちと人工内耳」

（講師 県立広島大学保健福祉学部 佐藤 紀代子先生）

- 難聴児にさせる経験について、経験とは特別な体験の事なのではなく、日常生活におけるあらゆるものが経験になるものだと感じた。あるお母さんが先回りをして子どもに不自由のない生活をさせようとしていた話でも生活の中の不自由こそが大切な経験になるのだなと思いました。また、子どもの内耳の捉え方

について、障害認知に関係するということは本当にその通りだと感じました。子どもの障害認知について、どのようにしていくのかももっと考えなければならないと思いました。



## 講習会 8月7日午前

### 【人工内耳の基礎】

- 最新の情報や両耳装用の効果など良くわかりました。
- 講義で学習すると、内容が理解しやすくて良かった。最近の人工内耳を見ることもでき、参考になりました。会社によつての特性の違いも知ることができ、わかりやすかったです。

### 【言語指導のための基礎講座】

- 日本語が実はこんなにややこしいものだとは・・・という発見がありました。自分にとって当たり前だということをどう説明していったらいいのかなと考えさせられました。

### 【はじめての補聴器フィッティング】

- はじめてを意識していただき、丁寧な説明がとてもわかりやすかったです。これから生かしていけそうです。
- フィッティングの経験がなかったので、難しく思いましたが、動画を見せていただいてイメージを持ちやすかったです。



### 【難聴学級の指導】

- 難聴児の実態把握をすることが大切という話からテストの仕方やテスト方法を教えていただき、とても参考になりました。また、言語指導をするためのドリルや作文指導について詳しく説明していただき、実践に取り入れたいと思いました。
- 視覚情報の保障の大切さを学びました。また、聞こえる子どもが聞こえない子どものサポートをすることの大切さを同時に学びました。ありがとうございました。

### 【聞こえのしくみと聴力測定】

- とてもわかりやすい内容でした。耳の仕組みの事は本などでも見ますが、要約して話していただけてとてもよかったです。もう少し勉強して(来年までに)もう一度聞きたいです。さらに良く理解できるように。

### 【FM(ロジャー)補聴器】

- とてもわかりやすかった。ロジャーの体験が良かった。
- FMの仕組みについてわかりやすく丁寧に説明していただいた。現場の先生は子どもの立場に立って、様々な聴覚保障のシステムを知るべきだと思う。



### 【実践報告】

- 各地域の特徴や、地域による違いなどが大変興味深かった。特に実践報告では多くの先生の話(5名)を聴くことができ、今後の参考になった。UDトーク(音声認識アプリ)なども実際に使つての講義だったので、より分かりやすくぜひ使いたいと思った。自立活動にはこんな方法があったのかと、私も分からない部分もあり、生徒のリアルな反応もあって良かったです。

### 【ろう学校における言語指導及び言語評価】

- 言語指導にゲームなどの少し工夫を取り入れることで、子どもの意欲を引き出しながら指導できることを学びました。助詞と動詞をセットで覚えていくことで、書いた時に間違いがないことなど大変勉強になりました。

## 講習会 8月7日午後

### 【幼稚部の自立活動】

- 他の先生方も同じような悩みや疑問を抱えているんだと思ったと同時に、具体的な話を聞かせていただき勉強になりました。
- 他の学校の幼稚部での取り組みを聴くことができ良かったです。自然環境が多い神戸校のお話はとても興味深かったです。



### 【補聴器の仕組みと保守管理】

- 補聴器について知らなかったことが良くわかりました。丁寧な説明にとっても聞きやすく楽しいお話で勉強になりました。
- 補聴器のしくみ、管理について具体的な実例を交えながら、講習していただき大変わかりやすく勉強になりました。

### 【人工内耳の保守管理】

- 人工内耳について、今まで知らなかったことをたくさん教えていただきました。また、自分でもHP等を見てもっと勉強しようと思いました。
- いろいろな状況の対応を知ることができて良かったです。ロンドやEAS、アクアの話も聞いて勉強になりました。



### 【難聴学級の取り組み】

- 高井先生が言われた「ここにいる子どもたち、先生方が難聴児のよき理解者にー」という思いは非常に共感を覚えます。聞こえない子ときこえる子の“育ちあい”という視点が大切だと思います。
- 情報保障や自己認識の取り組みの具体例が良くわかりました。自己認識の取り組みは本人と周囲が影響しあいながら、共に作り上げるものだと思います。

### 【地域支援】

- 障害理解、学習指導ともにその子自身の事をしっかりと理解し、取り組むことへの大切さを改めて感じました。周囲への障害理解を進めるのは小中高どこもむずかしいですね。特に校内に聞こえにくい子が一人～数人である場合、担任の先生や在籍校にどのようにアプローチしていけばいいのでしょうか。聞こえにくさ、聞こえなさの体験はあきらめずに取り組もうと思いました。

### 【オーディオグラムと補聴器の特性】

- オーディオグラムの読み取りも習う機会がなかったので、初めて特性等教えていただいて初心者にもわかりやすかったです。帰ってもう一度復習したいと思います。保護者にもこれで少しは説明できるかな？と思います

### 【音響学と聴覚生理の基礎】

- 難しい内容を大変わかりやすく教えていただきました。ありがとうございました。
- 専門的な内容で、面白く聞けた部分もあり、理解が追いつかない部分もあり(音について)、イリュージョン・フォーラムを見てください。



### 【補聴器・人工内耳の事例検討】

- 事例検討は「いつも通り！」色々詳しいお話が聞いて良かった。近畿教育オーディオロジーでの事例検討も新鮮で良かった。
- 内容が濃く、時間があっという間に終わってしまいました。本当にありがとうございます。来年度もこのような講座があるとありがたいです。

☆ 運営について(開催時期、講座の時間、講座数、講座の内容など)

- 去年の京都も良かったです、生野の交通のよさを生かしてよかったですと思います。
- 来やすい時期であったり、選べる講座も多く、内容もとても興味深いものばかりでした。
- 2日目の講座を行う会場はとてもわかりにくかったです。校内の案内がほしかったです。
- 何人かの方が近畿教育オー“じ” オロジーと言われていましたが、「じ」ではなくて、「でい」と言っていた方が、聴覚障害児教育者としてよいと思います。
- 講座がたくさんあり、選ぶのが大変でした。机があるとありがたいです。同じ内容で、午前、午後でしていただくことは難しいのでしょうか。

☆ 来年はこんな話をききたい…



実際の指導場面のビデオ/基本的な内容の講座/聴力測定に特化した話/補聴器のフィッティング次回は中級?応用編/重複障害児(知的、聴覚、発達障害)の教育、情報交換できる場/保護者の方との連携で、在籍校や担任の先生に障害理解を深められた実践例/中高生の事例/難聴学級の指導で言語指導について/参加者同士の交流がはかようなグループ討論形式/心理やアイデンティティに関する内容/作文指導について/医療現場からの話/要約筆記か情報保障の技術面/

人工内耳装用した時の音入れの様子。音入れから子どもの言葉の変化、言語指導

数多くのご意見や、改善案をいただきました。次年度以降の参考とさせていただきます。

**今後の予定**

平成27年

10月31日(土)秋の講演会(大阪府社会福祉会館)

「「聴こえにくい子どもたちの言の葉と自己決定能力の向上」を考える  
～一緒に考え、それぞれの意見を整理し、尊重しあいませんか～」

講師 下田看護専門学校 加藤 和彦 先生

12月上旬 冬の学習会の案内 機関紙53号発行

平成28年 1月29日(金)第3回代表委員会(奈良県立ろう学校)

1月30日(土)冬の学習会(奈良県文化会館)

「手話を生かした日本語指導(仮題)」

講師 東京都立大塚ろう学校

木島 照夫 先生

「きこえと発音、ことば(仮題)」

講師 筑波大学附属聴覚特別支援学校

木村 淳子 先生

3月下旬 集録第17号発行・機関誌54号発行

**近畿教育オーディオロジ研究協議会事務局**

**事務局長 柳瀬 尚子**

〒655-0013

TEL : 078-709-9301

兵庫県神戸市垂水区福田1-3-1

FAX : 078-709-0371

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校内

メール : na\_yanase@hyogo-c.ed.jp